



福島県 田村市

福島県田村市船引町船引字畑添76-2
 担当課: 保健福祉部 保健課
 〒963-4393
 ☎ 0247-81-2271 FAX 0247-82-4555
<http://www.city.tamura.lg.jp/>
 Eメール: hoken@city.tamura.lg.jp

本市のデータ

(1)面積 458.33km² (平30.1.1)

(2)人口 (人)

17国調	22国調	27国調	平30.10.1住基
43,253	40,422	38,503	37,806
65歳以上人口比率(27国調)			31.2%

(3)世帯数

17国調	22国調	27国調	平30.10.1住基
11,902	11,932	12,708	12,573

(4)沿革

平17.3.1合併(市制施行)
 滝根町 大越町 都路村 常葉町 船引町

(5)産業構造

区分	就業人口	就業人口
	17国調	27国調
1次	4,445人 19.9%	2,616人 13.1%
2次	8,673人 37.8%	7,659人 38.3%
3次	9,255人 52.8%	9,603人 48.0%
計	33,111人	20,022人

本市の概要

田村市は、阿武隈高原の中央に位置し、日山、移ヶ岳、鎌倉岳、高柴山、大滝根山、羽山などが連なり、これらの山々と小さな山々によって丘陵起伏が縦横に連続する地形となっています。これらの山岳を源に、大滝根川や高瀬川など多くの河川が地域を流下します。

観光面でも、この高原ならではの多くの見どころ・体験どころが点在し、その風土とぬくもりを伝える特産品も多くあります。特に、食品の国際品評会「モンド・セレクション」で、特別に優れた製品だけに贈られる最高位の「大金賞」を2004年～2010年と7年連続で受賞した「あぶくまの天然水」は、「あぶくま洞、入水鍾乳洞」という2つの鍾乳洞のもととなっているカルスト台地の石灰岩層を長い年月をかけ浸透してきた地下水をくみ上げたミネラルウォーターです。



支援に向けての取り組み状況

<対策の方針・目標>

市の自殺率は増減を繰り返しており、中長期的には減少傾向ですが、全国の自殺率を上回っているのが現状です。そのため、誰もが自殺に追い込まれることのない田村市の実現を目指して、田村市自殺対策計画「田村市いのちを支える行動計画」を平成31年3月に策定しました。

計画に基づき、市民一人ひとりがこころの健康づくりの大切さを意識し、自分自身の問題のみならず、市全体の問題としてお互いに支えあっていく仕組みづくりをするため、各関係機関や団体と連携しながら総合的な自殺対策の推進を目指しています。

<具体的な取組み>

1. 対面型相談支援事業の充実

- (1) H17年～ 臨床心理士による月1回の「心の健康相談」を実施(相談料無料)
- (2) H21年～ うつ病等自殺危惧者に対する臨床心理士による緊急的な相談への対応(相談料無料)
相談後に必要に応じて関係者とケア会議を開催。

2. 啓発活動

- (1) 「働く世代のメンタルヘルス」
従業員が20人以上の事業所で働く方々を対象に講演会を開催し、心の健康や命について関心を高め、本人、家族および地域社会で自殺予防に取り組めることを目的に実施
- (2) こころの健康セミナー
一般市民を対象に、心の健康や自殺に関する正しい知識等について理解を深めてもらうことを目的に講演会を実施
- (3) 心の健康に関する普及啓発
 - ・図書館との連携
自殺予防週間、自殺対策強化月間に併せ「心と命のサポートのためのコーナー」を設置
 - ・市政だより、おしらせ版等の広報誌への掲載
 - ・うつ予防のための普及啓発
産後のうつ予防、高齢者のうつ予防のパンフレットを配布

3. 若年層対策

- (1) 「10代の心を守るための授業」の開催
市内の中学校・高等学校の生徒を対象に、講師を派遣し、心の健康や命の大切さを考える機会とするとともに、生徒自身のセルフケア能力を高め、ストレスに直面した時の対処方法やSOSの出し方について学ぶ機会とする。
- (2) 精神保健啓発のパンフレット配布
市内の中学2年生を対象に心の健康や自殺予防のSOSの出し方についての知識を普及

4. 人材育成

- 「きづく、つなぐ、まもる相談支援者研修会」
地域のキーパーソンへの援助技術の向上を図り、地域で自殺予防に取り組めることを目的にうつ病などの病気の理解と対応について講話を実施
- ゲートキーパー養成講座
企業、民生委員、福祉関係事業者、市役所窓口職員等を対象に、悩みのある人に気づき、声かけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守るゲートキーパー養成を実施